

# こくごの力だめし①解答と出題意図

問題数は二十問。すべて五点とし、百点満点とする。

- 1 えにあうことばをひらがなでかきましよう。  
① ひこうき ② はっぱ ③ かぼちゃ  
④ いぬ ⑤ めがね

## (出題意図)

平仮名の読み書きができるかを問う問題。  
平仮名の読み書きは、各教科等の学習の基礎となるものであり、第一学年で全部の読み書きができるようにする必要がある。  
また、濁音や半濁音、促音や撥音、長音、拗音などにおいても、確実に読み書きができるようにしておくべきである。

## (関連する教科書の内容)

一上 p 11、14、19、22、23、30、31  
36、42、50、51、他、全般的に。

- 2 ひらがなをかたかなになおしてかきましよう

- ① シーツ ② ソロバン ③ セーター  
④ チューリップ

## (出題意図)

片仮名の読み書きができるかを問う問題。  
片仮名は、擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語等の表記に使われ、文や文章の中でも出てくるため、平仮名同様、確実に読み書きができるようにしておくべきである。

## (関連する教科書の内容)

一上 p 112、113 一上 p 68、69

- 3 つぎの文をよんで、字のつかいかたでまちがっているところを○でかこみましよう。

きょう、おじいちゃんのいえ(え)いきました。  
わたし(わ)せんたくものをたたおて(お)つだいました。

- でかこんだ字を正しくかきなおましよう。  
え↓へ わ↓は お↓を

## (出題意図)

正しい助詞が使えるかを問う問題。  
助詞の表記については、高学年でも誤記が多い状況で、文章を正しく読んだり書いたりする上で、確実に身に付けさせるべき事項である。

## (関連する教科書の内容)

一上 p 66、67

- 4 文のなかにてん(ん)とまる(ま)をつけましよう。

はなしをするとき、しっかりとくちを  
あけているのがいいね。

## (出題意図)

句読点を適切に打つことができるかを問う問題。  
句読点は、ひとまとまりの文章を書く上での基礎的な事項である。句点は文意識を育て、読点は接続詞などの後、主語の後、従属節の後、並列する語の後など必要な箇所にも打つことができるようにすることが、文章の読みにおいても重要であり、定着を図るべきである。

## (関連する教科書の内容)

一上 p 17、20

- 5 かん字のかきじゅんで正しいのはどちらですか。アとイのどちらかを○でかこみましよう。

- ① 右↓ア ② 九↓イ ③ 左↓イ

## (出題意図)

漢字を正しい筆順で書くことができるかを問う問題。  
「筆順」は、書き進む際の合理的な順序が習慣化したものであり、始筆から送筆、終筆までを確実に書き、文字の形を整える上でも大切である。  
また、筆順は、中学年からの毛筆使用においても影響してくるため、正しく身につけさせたい。

## (関連する教科書の内容)

一上 p 102、105、以後、全般。

- 6 日づけのよみがなをかきましよう。

- ① いちがつついたち ② ごがついつか  
③ はちがつようか ④ くがつここのか  
⑤ しちがつはつか

## (出題意図)

数の読み方と日づけの読み方の違いを理解しているかを問う問題。  
日常的にふれている日づけの読み方や書き方を習得することは、生活に役立つ言葉の力となる。「読む」や「書く」ことにおいても必要であり、確実に身につけさせたい。

## (関連する教科書の内容)

一上 p 40、41

# こくごの力だめし②解答と出題意図

問題数は十問。すべて十点とし、百点満点とする。

- 1  のことばをていねいなはなしかたにかきなおしましょう。  
はなすよ。 ↓ はなします (よ)。  
きいてね。 ↓ きいてください。

(出題意図)  
丁寧な言葉と普通の言葉との違いを理解し、使い分けができるかを問う問題。  
改まった場面に適した言葉を選んで話す力は、学習時は勿論、生活全般において必要な力であり、定着を図りたい。  
(関連する教科書の内容)  
一上 p.52 ~ 53、100 ~ 101

- 2 つぎの文をよんでこたえましょう。

- ① いつ あそびましたか。  
↓ おひるやすみのじかん (に)  
② どこで あそびましたか。  
↓ すなば (で)  
③ だれと あそびましたか。  
↓ いけださん (と)  
④ なにを して あそびましたか。  
↓ おだんごづくり (を)して)

(出題意図)  
人物の行動をとらえるための、主語、目的語、述語を問う問題。  
読むことにおいて、登場人物の行動や場面の様子などを押さえながら筋をとらえることは、一年生の段階で定着させたい力である。  
(関連する教科書の内容)  
一上 p.26 ~ 31、下 p.86 ~ 95

- 3  のなかには、アとイのどちらの文が入るといいますか。  
アとイのどちらかを○でかこみましょう。  
①

(出題意図)  
文と文との続き方をとらえる問題。  
記述に関する指導事項に、「文や文章の中で、語と語及び文と文との続き方を考えて記述する」ことが挙げられている。このことは、記述に限らず、話すこと・聞くこと、読むことにおいても大切であり、確実に身につけさせたい。  
(関連する教科書の内容)  
一上 p.22 ~ 29、86 ~ 95

4 つぎの文の中に、かぎ「」をかきましよう。  
みんなは、せんせいの おはなしに、「はい。」  
とへんじをしました。

(出題意図)  
会話文におけるかぎ「」の使い方を問う問題。  
かぎ「」の使い方を理解して文章の中で使えるようにすることは、読むことにおいても大切な力であり、確実に定着させたい。  
(関連する教科書の内容)  
一上 p.16

- 5  のなかに、ことばをかきましよう。  
だいめい さくしや

(出題意図)  
読むことにおける基本的な知識・理解を問う問題。  
物語の学習にあたり、「題名」や「作者」といった基本的用語は、意味をきちんと理解させておきたい。  
(関連する教科書の内容)  
一上 p.16